Hokkaido University News

北大時報

令和5年
8
No. 833　August 2023

THEインパクトランキング4年連続国内1位を称える楯を拝受
北大初となるネーミングライツ施設（Sky HALL）開設の記念式典を開催
新ブランド「北大トラウト」が完成

お知らせ

・組合員証等の検認
・令和4年度北海道大学外国人留学生後援会の決算

No.833　令和5年

目　次

大学院教育改革推進室がJAL×北海道大学SDGsワークショップを開催

北大初となるネーミングライツ施設（Sky HALL）開設の記念式典を開催

全学ニュース

1　THEインパクトランキング4年連続国内1位を称える楯を拝受
2　令和5年度北海道大学公開講座（全学企画）「社会変革の実現に向けた大学の役割：SDGs研究最前線」を開催
3　大学院教育改革推進室がJAL×北海道大学　SDGsワークショップを開催
4　令和5年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙行
4　令和5年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行
5　令和5年度出入国在留管理制度説明会を実施
6　春のガレージセールを開催
7　令和5年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行
8　札幌キャンパスで特定外来生物防除を実施
9　北大初となるネーミングライツ施設（Sky HALL）開設の記念式典を開催
10　令和5年度第4回　定例記者会見を開催
11　記者懇談会を開催
12　北大フロンティア基金
14　「若手技術職員先行育成プログラム」に係る職員研修を実施
15　DXゼミナール～in札幌～北海道のスタートアップ企業たちの挑戦～
16　メルボルン大学の先住民研究者一行が来訪
17　GSDC（GLOBAL SUSTAINABLE DEVELOPMENT CONGRESS）2023に本学横田　篤理事・副学長が登壇
18　令和5年度第1回サステイナビリティ推進員会議を開催
19　大学院教育推進機構リカレント教育推進部が2023年度前期北大道新アカデミーを開講
20　大学院生向けキャリア支援セミナー「日本と世界で働くためのLinkedIn入門」を英語・日本語で開催
21　大学院生向け英語プレゼンテーションセミナーImproving Your Oral Presentation Skillsを英語で開催

部局ニュース

22　文学研究院FD「デスクネッツネオ（desknet's NEO）の活用について」を開催
23　会計専門職大学院が公認会計士制度説明会を開催
23　次世代生命科学共同研究プロジェクト報告会を開催
24　令和5年度理学院優秀研究奨励賞授賞式を挙行
24　歯学部で台北医学大学歯学部生との交換留学を実施
25　水産科学研究院・サステイナビリティ推進機構が「HBC赤レンガプレミアムフェスト」に参加
26　東アジアメディア研究センターで『ミャンマーの民主化を求めて』出版記念トークショーを実施
27　低温科学研究所が中谷宇吉郎雪の科学館との連携協定に基づき出前授業及び講演会を実施
28　駐日欧州連合代表部代表・特命全権大使が附属図書館を来訪
29　メルボルン大学の家畜生産生理研究者一行が来訪
30　新ブランド「北大トラウト」が完成
31　保健センターで第9回健康キャンパス北大「正しく知ろうHPVワクチン　専門家が伝える子宮頸がん予防」に関する講演会を開催
32　スラブ・ユーラシア研究センター夏期国際シンポジウム「崩壊の局面：アフロ・ユーラシアから『14世紀の危機』を思考する」開催

お知らせ

33　組合員証等の検認
34　令和4年度北海道大学外国人留学生後援会の決算

表敬訪問　35

人事　36

36　新任教授紹介

記者懇談会を開催

GSDC（GLOBAL SUSTAINABLE DEVELOPMENT CONGRESS）2023に本学横田　篤理事・副学長が登壇

歯学部で台北医学大学歯学部生との交換留学を実施

新ブランド「北大トラウト」が完成

表　紙：THEインパクトランキング4年連続国内1位を称える楯を拝受（関連記事1頁に記載）
裏表紙：キャンパス風景㊶　インフォメーションセンター「エルムの森」（北8条西5丁目）

▌全学ニュース

THEインパクトランキング4年連続国内1位を称える楯を拝受

6月14日（水）、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education（THE：ティー・エイチ・イー）」が主催するシンポジウム「THE Masterclass Japan」が早稲田大学を会場に開催され、THEインパクトランキングにおいて、本学が2020年から4年連続で国内1位を獲得したことを称える楯が、THE社のシモーヌ・ディレーナ アジア太平洋地区代表より授与されました。また、これに先立ち、本学の出村　誠総長補佐が「北海道大学における持続可能な開発」と題して特別講演を行いました。

THEインパクトランキングは、気候変動に対する活動やジェンダーの平等、健康と福祉など、大学の社会貢献の取り組みを国連のSDGsの枠組みを使って評価するというものです。6月1日（木）に発表された「THEインパクトランキング2023」において、本学は総合ランキングで対象となった世界1,591大学中、世界22位、国内では1位にランクインしています。

（サステイナビリティ推進機構、統合URA研究マネジメントステーション）

楯を持つ横田　篤理事・副学長を中心に記念撮影をする関係者

本学が4年連続で国内1位を獲得したことを称える楯

THEインパクトランキング2023で世界22位（国内1位）

令和5年度北海道大学公開講座（全学企画）「社会変革の実現に向けた大学の役割：SDGs研究最前線」を開催

6月8日（木）から7月27日（木）まで、本年度の公開講座（全学企画）をオンラインで開催しました。

昨今、グローバル化が進展し、世界の諸課題が顕在化するなかで、その解決に向けたSDGs（持続可能な開発目標）を達成するための取り組みが様々な国や地域で推進されており、社会のより良い発展のために大学が果たすべき役割がこれまで以上に問われています。このような状況の中、本学は、THE（Times Higher Education）が公表するインパクトランキングにおいて2020年から4年連続で国内1位を獲得しました。本講座では、このような北海道大学の「強み」を生かして、「社会変革の実現に向けた大学の役割：SDGs研究最前線」を共通のテーマとし、公開講座実施専門部会（座長：亀野　淳　高等教育推進機構教授）において全学から8人の講師を選出し、それぞれが専門分野からこの共通テーマを受け止める形で講義を行いました。

講義では、ワインを通じた地域振興、睡眠科学、サニテーション、文化遺産マネジメント、廃棄物管理、気候変動、地殻変動、北海道大学の取り組みなど幅広い分野から、最新の研究成果とSDGsとの関わりが紹介されました。

講義後の質疑の時間には、受講生から多数の質問があり、意欲の高さが感じられるとともに、講義内容の理解を深める貴重な時間となりました。

今年度は、道内外から70名（全8回：61名、特定の回のみ：9名）が本講座を受講しました。今年度もオープンエデュケーションセンターの協力を得て、ライブ配信に加えてアーカイブ配信も行いました。遠方からも受講でき、また都合のよい時間に受講できると大変好評でした。全学企画だからこそ提供できる本講座の学びについて、多くの受講者から、講義内容の幅広さと深さ、講師の分かりやすい説明に高い評価が寄せられました。

（学務部学務企画課）

各回の講義題目と講師

第1回　「サステイナブル・テロワール」を目指して　（農学研究院　教授　曾根輝雄）
第2回　最新研究からみえてきた心身の健康と生物時計の関係
（教育学研究院　准教授　山仲勇二郎）
第3回　子どもと地域で創る未来のサニテーション　（保健科学研究院　教授　山内太郎）
第4回　コミュニティとつながる　未来につなげる文化遺産
（アイヌ共生推進本部　准教授　岡田真弓）
第5回　循環型社会と脱炭素社会の統合的実現～物とエネルギーの循環～
（工学研究院　教授　石井一英）
第6回　未来をつくること：気候中立と気候正義　（地球環境科学研究院　教授　山中康裕）
第7回　地震・火山活動と人間の暮らしを考える　（理学研究院　准教授　大園真子）
第8回　北海道大学が取り組むSDGs　（サステイナビリティ推進機構　教授　加藤　悟）

山口淳二理事・副学長による開講の挨拶

質疑応答を行う曾根教授（写真左）と亀野教授（写真右）

大学院教育改革推進室がJAL×北海道大学 SDGsワークショップを開催

大学院教育改革推進室は7月3日（月）、日本航空株式会社（以下、JAL）との共催により、「JAL×北海道大学 SDGsワークショップ」を開催しました。

本ワークショップは本学の学生をはじめ市内高等学校の生徒も対象に、JALのサステナビリティ及びESG戦略を参加学生が理解した上で、それぞれの知見や研究成果をJALの企業課題解決や新しい価値の創造に繋げ、より実学に近い学びの場を提供することを目的に実施されました。

また、参加学生にはJALに対し「取り組んでもらいたいこと」、「自身の研究成果をJALとの協働で社会実装できること」等の「提案」を行う事前課題を課し、その提案を参加学生同士でも評価し合う仕組みを設けました。多くの学生が主体的にJALのSDGsに関する取り組み状況やESG戦略を調べ、結果として100を超える提案が、当日会場内に掲示されました。

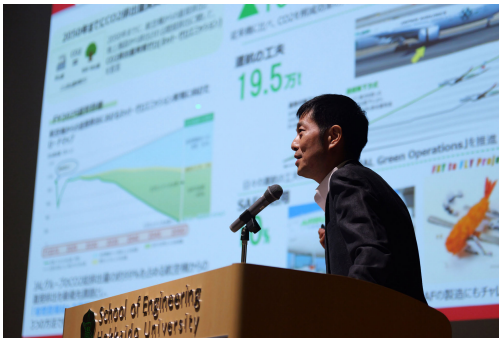
ワークショップ当日は寶金清博総長の挨拶に続き、JALのESG推進部企画グループ亀山和哉グループ長より、JALのサステナビリティ及びESG戦略等に対する考え方や、具体的な取り組み内容に関し、ご講演いただきました。

その後、100名越えの参加者の中から6名の学生が提案内容を発表、会場内での意見交換を経て、参加学生同士のウェブ投票結果による優秀提案者を発表、ワークショップ開催支援企業である株式会社クレアンより全体の感想を、亀山グループ長より総括をいただき、山本文彦理事・副学長からの挨拶で終了となりました。

学生からの提案は今後JAL内部で精査され、実現するに相応しい提案にはグッドアイディア賞が贈られる予定です。グッドアイディア賞に選出された提案は企画案として、JALと共同でその実現可能性等を含めた検討が行われる予定であり、学生には更なる学びの場を提供できることが期待されます。

（学務部学務企画課大学院教育改革推進室）

寶金総長による挨拶



講演する亀山グループ長

参加学生による意見発表

それぞれの意見を読み、考える学生たち

令和5年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙行

6月20日（火）、高等教育推進機構において、令和5年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙行しました。

レーン記念賞は1・2年次の英語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、昭和40年から「レーン記念奨学金」として始まり、平成9年からは「レーン記念賞」と名を改め、今回を含め420名の学生に授与されています。

授与式は、受賞者9名のうち8名が出席し、山口淳二理事・副学長、渡邊　洋名誉教授、外国語教育センターから奥　聡教授、土田映子教授、そして平田公明学務部長の列席のもと執り行いました。

最初に、奥教授からレーン記念賞の歴史と、本賞に名をいただいているハロルド・Mレーン（Harold M.Lane）先生の功績についての説明がありました。

次いで、山口理事・副学長から受賞者へ賞状、記念メダルが授与され、「ハロルド・Mレーン先生のように、皆さんも周りの人から敬愛されるよう、また世界にはばたく人間となるよう、身につけた英語力により一層磨きをかけ、国際性豊かな人間として周囲から親しまれる社会人を目指してください」との激励の言葉が贈られました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	石　川　真　央
文学部	山　田　美　博
文学部	林　萌　乃　香
法学部	土　屋　ひかる子
法学部	松　平　玲　奈
経済学部	相　馬　　全
医学部	相　原　陽　菜
工学部	小　松　周　生
工学部	吉　田　貴　哉

受賞者記念撮影

授与式の様子

令和5年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行

6月27日（火）、高等教育推進機構において、令和5年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行しました。

宮澤記念賞は、1年次に履修した外国語科目のうち、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び韓国語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、今回が9回目となります。

授与式は、受賞者10名のうち9名が出席し、山口淳二理事・副学長、濱井祐三子外国語教育センター長、そして平田公明学務部長の列席のもと執り行い、山口理事・副学長から受賞者へ賞状が授与され、宮澤・レーン事件や宮澤弘幸氏が国際的な活動に熱心な学生であったことについてのお話と共に、「本賞の主旨を理解し、今後、益々活躍することを期待しています」との激励の言葉が贈られました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	川久保　璃　音
文学部	上　田　誠　人
文学部	川　田　啓　介
文学部	山　野　翔　貴
理学部	RZEPKA MIKOLAJ
文学部	田　元　　克
文学部	住　田　優　里
文学部	横　山　穂　実
理学部	法　邑　　快
文学部	奥　山　里　音

受賞者記念撮影

授与式の様子

令和5年度出入国在留管理制度説明会を実施

7月6日（木）、学術交流会館講堂にて出入国在留管理制度説明会を開催しました。

本説明会は「北海道留学生交流推進協議会」の事業の一環として、協議会関係者向けに最新の正しい出入国在留管理制度の情報を提供し、制度への理解を深めることを目的とし毎年開催しているものです。出入国在留管理局等から講師を招いて行っており、今回の参加者は道内各地の26団体から計91名となりました。

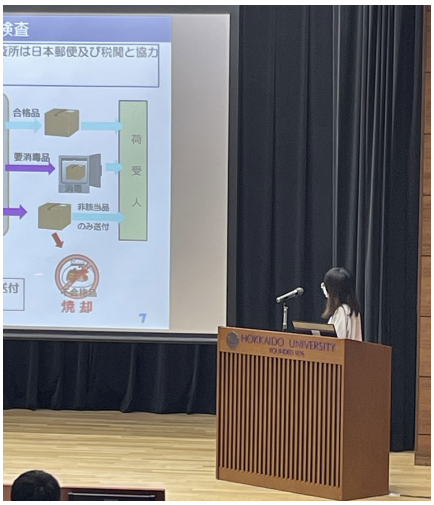
説明会では、法務省札幌出入国在留管理局審査部門の館山知拡審査官より「出入国在留管理制度について」の講義があり、最新の入国者の動向や制度について説明がありました。次に北海道農政部生産振興局畜産振興課の早川潤主査から「家畜の海外悪性伝染病と農場の自衛の取組について」、続いて農林水産省動物検疫所北海道・東北支所検疫課の竹浪亜沙子係長から「肉製品の違法持ち込み防止に向けて」の講義があり、家畜伝染病の傾向と対策及び肉製品の持ち込み厳格化に関する内容が紹介されました。質疑応答では、事前に受け付けた質問に対する回答を含め、最新の留学生や研究者の入国に関する措置等について丁寧な説明がなされ、大変有意義な説明会となりました。

本説明会は、「申請等取次申出書」の添付書類となる経歴書に記入できる「出入国在留管理行政に関する研修会等」に該当するため、申請等取次者証明書の交付を希望する受講者には研修会受講証明書を提供しております。

（学務部学生支援課）

札幌出入国在留管理局の館山審査官による説明

北海道農政部生産振興局の早川主査による説明



農林水産省動物検疫所の竹浪係長による説明

春のガレージセールを開催

7月4日（火）、学生交流ステーションロビー及び学生活動室において、3年ぶりに春のガレージセールを開催しました。これは、本学の教職員の配偶者と女性教職員で構成されている北海道大学国際婦人交流会が春と秋の年2回行っているもので、留学生と外国人研究者に対して日常生活に必要な物資を提供しているものです。

当日は天気も良く、来場者は開場とともに小型家電製品、食器や調理器具など日用品、衣料や寝具などのコーナーに詰めかけていました。来場者数は約120名でした。多くの留学生が手に大きな荷物を抱え、活気ある賑わいを見せていました。

毎年4月と10月の開催前には学内に向けて物品提供依頼をしています。皆様のご協力をお願いいたします。

（学務部学生支援課）

オープン前から行列する留学生

布団を選ぶ留学生

日本人形を選ぶ留学生

令和5年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行

7月12日（水）、高等教育推進機構において、令和5年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行しました。

新渡戸賞は優秀な学部生の育成を目的として平成17年度に設けられた制度で、1年次における学業成績が特に優秀で、かつ人格に優れ、他の学生の模範となる2年次生に対して、奨励金が給付されます。

授与式は、受賞者13名のうち12名が出席し、山口淳二理事・副学長、平田公明学務部長列席のもと執り行い、山口理事・副学長から賞状が授与され、新渡戸稲造博士の業績についてのお話と共に「今回の受賞を契機に、皆さんには自らの教養を深め、学問に精励し、これからの大学生活をより一層有意義なものにすると共に、世界に羽ばたく人間へと成長していただきたい」との激励の言葉が贈られました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	芳賀　みの里
教育学部	濱口　晴奈
法学部	劉　璟嫣
経済学部	長江　嵩史
理学部	吉田　修
医学部（医）	張　一夫
医学部（保健）	北川　正隆
歯学部	今木　萌寧
薬学部	伊藤　詩歩
工学部	中山　遼平
農学部	吉田　祐太
獣医学部	鈴木　堅哉
水産学部	鷲見　康介

受賞者記念撮影

授与式の様子

札幌キャンパスで特定外来生物防除を実施

6月21日（水）、札幌キャンパス内にて、特定外来生物防除を、大野池周辺、弓道場周辺及び地球環境科学研究院北側周辺にて実施し、学生9名、教職員31名が参加しました。

この活動は、「北海道大学キャンパスマスタープラン2018」に掲げている、自然・生態環境の維持・管理・保全の取り組みの一つであり、侵略的外来植物の防除を推進するものです。

本年は生態環境マネジメントワーキンググループ長の愛甲哲也農学研究院准教授及び地球環境科学研究院の露崎史郎教授、他構成員の先生方指導のもと、怪我や熱中症予防に配慮して約2時間の作業を行い、特定外来生物（植物）であるオオハンゴンソウ及び要注意外来生物（植物）であるドクニンジン等を計約4㎡を防除することができました。これら防除した結果は、年末に環境省へ報告することとしています。

（施設部環境配慮促進課）

露崎教授による防除対象植物及び防除方法の説明

防除中の様子

地球環境北側で集められたドクニンジン

大野池周辺で集められたオオハンゴンソウ

北大初となるネーミングライツ施設（Sky HALL）開設の記念式典を開催

北海道大学とSky株式会社は、札幌キャンパス高等教育推進機構大講堂（以下「本施設」）のネーミングライツ（施設命名権）取得に関する「国立大学法人北海道大学ネーミングライツに関する契約書」を締結し、7月10日（月）にネーミングライツ施設「Sky HALL」としての開設記念式典を開催しました。

本学では、地域の活性化・人材定着への寄与や民間企業等との連携機会の創出・拡大、教育研究環境向上のため安定した財政基盤を確立することなどを目的として、1月からネーミングライツ制度の運用を開始しました。

この度、本施設についてSky株式会社をネーミングライツ・パートナーに決定し、6月22日（木）に契約を締結しました。令和5年7月1日から同8年6月30日まで本施設の愛称は「Sky HALL」となりました。本件は初めてのネーミングライツ施設です。

記念式典では、Sky株式会社から多田昌弘取締役と矢田哲也営業部課長、本学からは行松泰弘理事と野村益寛高等教育推進機構副機構長が出席し、多田取締役からは今後の意気込み、行松理事からは契約締結への謝意がそれぞれ述べられました。

Sky株式会社と連携して、「Sky HALL」の愛称が多くの学生に親しまれ定着するよう努めてまいります。

（社会共創部社会連携課、
学務部学務企画課）

ネーミングライツの概要

1. ネーミングライツ・パートナー	（1）法人名：Sky株式会社 （2）本社所在地： 東京本社　東京都港区港南2丁目16番1号 品川イーストワンタワー15階 大阪本社　大阪市淀川区宮原3丁目4番30号 ニッセイ新大阪ビル20階 （3）代表者：大浦淳司
2. 対象施設	札幌キャンパス高等教育推進機構大講堂（延べ床面積：346㎡）
3. 愛称名	Sky HALL（スカイ ホール）
4. 契約期間	令和5年7月1日～令和8年6月30日

テープカットの様子（左から、矢田課長、多田取締役、行松理事、野村副機構長）

サイン前での写真撮影（多田取締役、行松理事）

令和5年度第4回　定例記者会見を開催

7月20日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けて分かりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しました。行松泰弘理事の進行のもと、寶金清博総長、山口淳二理事・副学長が発表を行いました。北海道教育庁記者クラブ加盟社等から12名の参加がありました。

発表内容は以下のとおりです。

（社会共創部広報課）

発表事項（発表者）

・HU VISION 2030の策定について
（総長　寶金清博、理事・副学長　山口淳二）
※発表資料掲載URL
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/org/pr/press-conference/R5.html

定例記者会見の様子

発表を行う寶金総長

記者からの質問に答える山口理事・副学長

当日の発表者と司会を務めた行松泰弘理事
（左から行松理事、寶金総長、山口理事・副学長）

記者懇談会を開催

7月20日（木）、本学総長と地元記者との交流を深めることを目的とした「記者懇談会」を開催しました。同懇談会には、寳金清博総長、行松泰弘理事（広報・社会連携本部長）、山崎幹根総長補佐、南波直樹教授（広報・社会連携本部広報・コミュニケーション部門長）、菊池洋美広報課長が出席し、北海道教育庁記者クラブ加盟社から13名が参加しました。

冒頭、寳金総長から「記者の皆さんと率直に話をできる機会は貴重なので、参加いただきありがたい」旨の挨拶があり、賑やかに懇談が始まりました。

席上の料理には、構内で採れた野菜や牛乳が使用されており、参加者は北大ならではの料理に舌鼓を打ちながら、活発な意見交換を行いました。

記者からは、北大の取組について知る良い機会となった、他社の記者と話す機会がなかなかないので参加して良かった、との意見が寄せられ、盛会のうちに懇談は終了しました。

（社会共創部広報課）

記者懇談会の様子

記者からの質問に答える寳金総長

談笑する参加者

構内で採れた野菜等を使用した料理

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をすることとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額（6月30日現在）　41,462件　6,498,213,194円

6月のご寄附状況

法人等198社、個人2,290名の方々から124,211,326円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社アイ・ディー・エフ、医療法人喬成会　花川病院、クボタ環境エンジニアリング株式会社、工学部土木工学科第63期卒有志一同、一般財団法人砂防・地すべり技術センター、手工業組合森と手と、株式会社SUTEKi、株式会社TARU、株式会社ナカノフーズ、一般社団法人日本スポーツ広告協会、柏楊印刷株式会社、函館中央病院、北電総合設計株式会社、一般財団法人北海道青少年科学文化財団、メダクタジャパン株式会社、株式会社六書堂

寄附者ご芳名（個　人）

合川　正幸	青井　良平	青木　俊介	青木　宏之	赤平　幸郎	浅野　智裕	阿部　雅史	安藤　伸一
安藤　靖浩	伊賀　尚志	伊古田明美	石井　哲夫	石垣　隆弘	石川　直敬	市坂　有基	伊藤　和子
伊藤　大貴	伊藤　雄三	伊藤　良一	稲垣　雅人	稲川　良道	稲辺　隆史	猪股　路子	井原　博
今井　晋	今田慎一郎	入澤　秀次	岩崎　沙理	岩渕　和則	上田　峻弘	上田　雅敏	植松　宏
上村　稔	梅本　由佳	縁記　和也	遠藤　公憲	及川　晃男	大畑　昇	大原　正範	大道進之輔
沖崎　遼	小田原一史	小野澤　賢	小野　芳樹	尾畑　和雄	小原　大和	笠原　正典	勝俣　一晃
加藤　伸康	加藤　裕貴	金川　眞行	金田　亮平	神谷　陽子	亀田　啓	川口　正尚	河本　充司
木島　弘道	衣川　暢子	木村　祐介	木村　幸文	楠　祥光	工藤　康生	久保田幸一	久保田　充
倉品　悠	栗岡　均	栗原　誠治	クワシマケンスケ	上月　浩	小暮　竜太	小林　賢人	小松　庸祐
近藤　竜一	齊藤　晋	齋藤　久	酒井　道	酒井　利彰	坂田　一寿	坂本　大介	佐々木昭悟
佐々木亮介	佐藤　市雄	佐藤　淳治	佐藤　八雷	三升畑元基	塩澤　優子	志済　聡子	渋谷真希子
島　佳隆	白石　健	新宮　康栄	陣内　英輔	新保　勝	菅原　新也	杉江　和男	杉本　聡
鈴木　誠一	鈴木　貴之	數土　文夫	瀬尾　眞浩	関根　一臣	関根　史明	瀬名波栄潤	高澤　寛
高島　真一	高瀬登志彦	高田　明生	高橋　明広	高橋　彩	高橋　亮	高柳　涼	田中　千尋
田名部直勝	種井　善一	玉置アツコ	地紙　実	土家　琢磨	鶴田　佳奈	寺澤　睦	寺西　圭介
土岐　祥介	豊田　威信	長澤　俊輔	中沢　大悟	中塚　英俊	中野　高広	中村　楯夫	中村　雅夫
中村　元郎	中山　承代	成田　長英	西方美智子	西嶋　淳子	新田　幸絵	根本　叔治	野口　学
野田　俊幸	野原　直人	野見山尚志	橋本　政士	花田　秀一	浜中　聡	羽山　広文	春川　幸代
樋口　恵一	笛木　孝雄	福士　幸治	福永　悟郎	藤澤　裕子	藤島　佳世	古川夕里香	堀　雅之
松井　耕二	松浦　清隆	松浦ゆかり	松原　謙一	松本　嶺	真屋　幹雄	三木　證永	三嶋　幸子
水田　浩之	三田部　充	南田　大朗	宮田　重穂	宮田　信幸	宮本　雅章	村形　哲	村瀬　亮太

村田　好広	村中　　司	矢ヶ崎啓一郎	八木　龍郎	矢澤　龍雄	山﨑　浩司	湯次　佳子	横井　利幸
横山　文男	横山　　考	吉田　広志	吉野　　輝	吉村　直孝	若狭　　哲	脇坂　敏夫	和田　　元
渡辺　和徳	渡邉　一央	渡辺　照雄	渡部　克将				

銘板の掲示　20万円以上のご寄附で新規に銘板を掲示される方

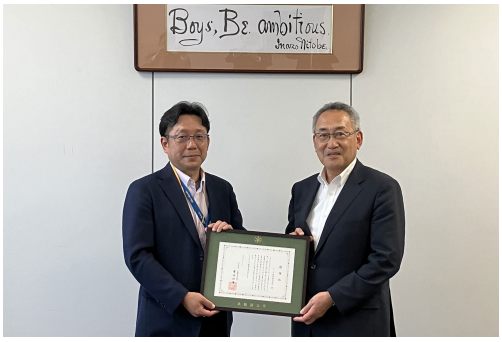
（個　人）

赤平　幸郎、今田慎一郎、亀田　　啓、新宮　康栄、鈴木　誠一、西嶋　淳子、野口　　学、水田　浩之、山﨑　浩司

（法　人）

株式会社ナカノフーズ、北電総合設計株式会社

〈感謝状の贈呈〉



アジア航測株式会社様（令和5年6月28日）

アサヒビール株式会社様（令和5年6月30日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。
https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。
申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ
（https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ　卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話　2017）

（社会共創部広報課）

「若手技術職員先行育成プログラム」に係る職員研修を実施

6月19日（月）～22日（木）に植物園・情報基盤センターにおいて、北大コアファシリティ構想研究支援人材育成プログラム、マルチスキル人材育成プロジェクト事業の一環として、「若手技術職員先行育成プログラム」により採用された技術職員に係る職員研修を実施しました。本研修は、先行雇用された技術職員の「マルチスキルの獲得」と、異なる職場の業務体験等を通して、幅広い視野と技術を養うことを目的としています。

植物園では、観覧者の目を意識した木花の管理や、訪れる方の安全を考えた園内管理など、様々な植物の管理方法等を学びました。また、お互いの日常業務等に関する情報交換も活発に行われました。植物園の技術職員からは、研修の受講者を受け入れることが職場の活性化をもたらし、横の繋がりもできるため、来年度も実施したいという声があり、受講者だけでなく、受け入れ側にとっても意義のある研修となりました。

情報基盤センターでは、普段立ち入ることのできないスーパーコンピューターの施設見学をした後、業務の紹介があり、機器入れ替え時の仕様書作成にまつわる話等を通じて、技術職員として関わる仕事の幅の広さを感じることができました。また、「一見現在の業務に関係のないことにも取り組むことが後々活きることがある」とのアドバイスを受け、真剣に耳を傾ける受講者の様子が見られました。

また、それぞれの研修会場において、受講者は所属する研究林での業務の様子を動画で紹介しました。受け入れ側の技術職員からは活発に質問が出て、相互理解が深まりました。

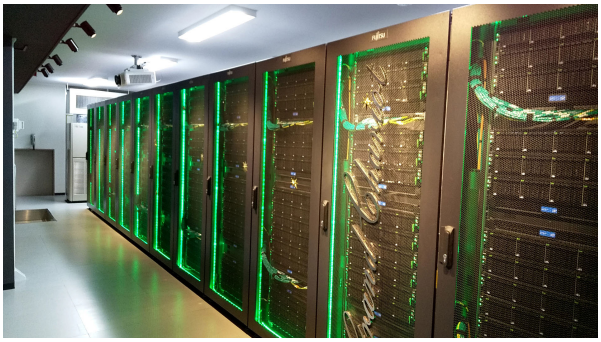
なお、本研修は年度内にあと3回実施する予定です。

（技術支援本部）

高山植物への水やり作業（植物園）

休園時の芝刈り作業（植物園）

バラ園での剪定作業（植物園）


スーパーコンピューターの施設見学（情報基盤センター）

DXゼミナール～in札幌～北海道のスタートアップ企業たちの挑戦～

7月14日（金）札幌コンベンションセンターでDXゼミナールin札幌vol.4が開催されました。

第1部では、工学研究院の坪内直人准教授から魚の鮮度見える化システム"MIRASAL"を活用した持続可能な漁業の研究について、情報科学研究院の竹井邦晴教授から熱中症や脱水症の早期発見に役立ち、足圧センサシートを利用して転倒の予防にも繋がる「見守り電子皮膚」というフレキシブルセンサ技術の研究について発表が行われました。

次いで、大学院教育推進機構DX教育連携部門の准教授を務めた後、現在は株式会社enのCEOを務める湧田雄基氏から、データサイエンスを活用したビジネス支援及び人材育成事業について事例が報告されました。

第2部では北大発認定スタートアップ企業のＡＷＬ株式会社の土田美那CHROが創業から現在までの7年間の事業内容や国内のエンジニア不足という問題に直面した結果、海外からの人材採用に至った経緯、「エッジAI技術で未来を豊かに」というミッションを持った事業展開についての講演がありました。

第3部では「札幌のスタートアップをどう育成していくのか」をテーマに、株式会社JALカードの西畑智博代表取締役社長、株式会社D2Garageの佐々木智也代表取締役社長、産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部の小野裕之副本部長によるパネルディスカッションが行われました。北海道の地域課題として、起業意識の低さや事業化に向けた経営人材・伴走者の不足、さらに機関投資家からの資金供給が進まずファンドサイズが小さいという点が挙げられました。昨今、北海道でもスタートアップが生まれる土壌が整いつつあり、これからは質が問われるようになってくるという見解がありました。

北海道から生まれるスタートアップが次なる挑戦を行うのは世界のステージです。そのためにも本学が提供する国際的かつ先進的な研究と教育を基に、大学発スタートアップの創出を引き続き進めてまいります。

（産学・地域協働推進機構）

パネルディスカッションの様子

情報科学研究院竹井教授の事例報告

メルボルン大学の先住民研究者一行が来訪

6月22日（木）～29日（木）、メルボルン大学からバリー・ジャッド先住民担当DVC（Deputy Vice-Chancellor；理事相当）、アーロン・コーン先住民研究所長、カーステン・クラーク同研究所職員、リチャード・チェンホール医療人類学教授、マーゴット・イーデン先住民戦略担当課長、グローバル先住民修士課程を教えるカミオ・ダリー講師、先住民所蔵物管理長のヴァネッサ・ラス上級講師、先住民研究データネットワーク構築に携わるクリステン・スミス上席研究員、リヴァイ・マレー戦略マネージャー、トレント・ライアン研究員の計10名が来訪しました。

両大学は、長年の感染症、ナノ材料研究連携をもとに、2021年末から全学的な連携強化を図っているところです。先住民研究は、アイヌ・先住民研究センターを有し、総長直下教員組織の国際連携研究教育局（GI-CoRE）でも当該分野を推し進める本学と、先住民知識研究所を設立し、初の先住民担当の理事職を設けたメルボルン大学の双方にとって、大きな意味を持つ分野です。

今回、先住民研究者一行は、加藤博文アイヌ・先住民研究センター長らとともに、平取町の二風谷コタン、白老町にできた民族共生象徴空間ウポポイ、札幌アイヌ協会への訪問、複数回のアイヌの方々との会合を行いました。先住民コミュニティにおける貧困・アルコール中毒・家庭内暴力問題、キャリアパス形成、大学や国が有する先住民所蔵物のオーナーシップといったことから、両親のどちらかのみが先住民の世帯や都心で生まれ育った先住民出身家庭のルーツへのアクセスのし難さは、豪日で共通の関心テーマでした。また、大学運営と先住民、先住民出身ではない研究者が先住民研究に関わる意義と難しさ、学術機関所属者がコミュニティへ入り研究を行うプロセス、閉じた環境に陥りがちの先住民コミュニティを海外の先住民コミュニティと繋ぐという大学の役割、大学が先住民関係における官民コミュニケーションの場を提供すること、先住民研究分野の共同教育等の様々な議論が交わされました。

6月28日（水）に開催された「北海道大学・メルボルン大学先住民研究に係るコンファレンス」には、メルボルン大学からマイケル・ウェズリー国際・文化・外部連携担当DVC、エイドリアン・リトル国際担当PVC（Pro VC；副理事相当）、アレックス・ジョンソン理学副研究院長、キャロル・チェン国際担当職員が、駐日オーストラリア大使館から教育・研究担当のジャニン・ピット参事官と塚本久美子上席マネージャーが駆け付け、寳金清博総長、髙橋 彩理事・副学長（国際）、横田 篤理事・副学長（財務・SDGs）、保健科学研究院の山内太郎教授らに迎えられました。国際・理学関係一行は、農学・食資源学、人獣共通感染症、理学の研究者との懇談を行い、今年の7月、11月に北海道、メルボルンでそれぞれ開催される農学系ワークショップに繋がる良い機会となりました。

（アイヌ先住民研究センター／国際連携研究教育局、国際連携機構）

全学コンファレンス

先住民と健康に係るワークショップ

国際担当執行部の農学・食資源学訪問

ジャッド先住民担当DVC

GSDC（GLOBAL SUSTAINABLE DEVELOPMENT CONGRESS）2023に本学横田　篤理事・副学長が登壇

横田　篤理事・副学長は、5月29日（月）から6月1日（木）にサウジアラビアのキング・アブドゥッラー科学技術大学（KAUST）で開催されたGSDC2023に講演者として招聘され、発表を行いました。

GSDC2023は、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education（THE：ティー・エイチ・イー）」が主催し、67か国から538の教育機関が参加しました。日本からは本学が唯一の参加教育機関となり、本学からは横田理事・副学長のほか、秦　絵里国際部長と加藤　悟サステイナビリティ推進機構教授の3名が参加しました。

横田理事・副学長は、5月31日（水）に行われた、KAUST環境理工学部のホン・ペイイン准教授をモデレーターとする、環境汚染や農業、林業、水産などをテーマにした「持続可能な環境」セッションの中で、本学の概況や、日本及び北海道における農業、酪農業、水産業の現況と課題、それらの課題解決に向けた本学の取り組み、教育プログラム等について報告を行いました。セッションの中でのディスカッションでは、大学の経営層がSDGsと持続可能性の概念を大学のビジョンや方針に明示的に組み込んで、大学における教育、研究、運営を含む取り組み全体に浸透させることが、将来を担う学生達に正しい価値観をもたらすことに繋がることが確認されました。

6月1日（木）には、SDGsを評価対象とした「THEインパクトランキング2023」の発表が行われました。本ランキングには112の国と地域から参加があり、1,591大学が総合ランキングの対象となったことが報告され、本学は世界22位、国内では1位にランクインしたことが発表されました。

本会議の最後には、次世代のリーダーを育成するために、大学は持続可能性の概念を大学の戦略計画に埋め込み、学生に対して学際的なSDGsプログラムを必修とすることなどが成果文書としてまとめられました。

（サステイナビリティ推進機構）

講演する横田理事・副学長

セッション登壇者

GSDCへの本学からの参加者
（左から秦部長、横田理事・副学長、加藤教授）

令和5年度第1回サステイナビリティ推進員会議を開催

サステイナビリティ推進機構は、7月5日（水）、令和5年度第1回サステイナビリティ推進員会議をオンラインで開催しました。各部局のサステイナビリティ推進員及び同補佐の他、施設部職員等合わせて85名の出席がありました。

サステイナブルキャンパスマネジメント本部長の菅原修孝理事より開会の挨拶の後、SDGs事業推進本部長の横田　篤理事・副学長より、「サステイナビリティ推進員制度について」の説明を行いました。続いて、協力要請として事務より、「令和5年度夏季の省エネルギー対策について」の説明を行い、「省エネルギーの手引き2018」（下図参照）や電力モニタリングシステム*1を活用していただくよう案内がありました。

次に、農学研究院の愛甲哲也総長補佐より、「中央ローン及び農・理学部横の緑地の利用について」及び「生態環境保全管理方針の改定について」の説明がありました。

その後、横田理事・副学長より、「THEインパクトランキング2023*2の本学の結果について」の説明があり、また5月末にTHE事務局からの依頼を受け出席したサウジアラビア王立大学KAUST（キング・アブドゥッラー科学技術大学）でのGLOBAL SUSTAINABLE DEVELOPMENT CONGRESS（世界持続可能な開発会議）の様子についても話されました。

最後に、SDGs事業推進本部の加藤悟教授より、「出張FD・SDについて」及び「令和5年度全学教育科目のSDGs関連情報の提供について」の説明がありました。

サステイナビリティ推進機構では、今後も引き続き、部局等と連携を図りながらサステイナビリティ推進に関する活動を実施して参ります。これらの活動はキャンパスの維持・管理や財政等に密接に関わる課題でもあり、北海道大学として持続可能な社会の実現及び未来づくりに貢献していくためにも、全学で一丸となって進めていきたいと考えます。皆様のご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

*1 電力モニタリングシステムのURL…（学内限定）
https://zengakudenryoku.osc.hokudai.ac.jp/denryoku/

*2 THEインパクトランキング…
Times Higher Education（英国の高等教育専門誌）が毎年、大学の社会貢献の取り組みを国連のSDGsの枠組みを使って可視化するランキング

（サステイナビリティ推進機構）

議題

1. サステイナビリティ推進員制度について
＜協力要請＞
2. 令和5年度夏季の省エネルギー対策について
3. 中央ローン及び農・理学部横の緑地の利用について
＜報告＞
4. 生態環境保全管理方針の改定について
5. THEインパクトランキング2023に関する本学の結果について
6. 出張FD・SDについて
7. 令和5年度全学教育科目のSDGs関連情報の提供について

省エネ対策の手引き

省エネルギー対策について、事務より説明する様子

緑地の利用について、愛甲総長補佐より説明する様子

https://www.facility.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2018/07/2018.07-syoene-tebiki.pdf

大学院教育推進機構リカレント教育推進部が2023年度前期北大道新アカデミーを開講

大学院教育推進機構リカレント教育推進部は、北海道新聞社との包括連携協定に基づいて、主に学外の社会人を対象とした教育プログラム「北大道新アカデミー」を運営しています。2023年度前期は、5月13日（土）から7月8日（土）にかけて、理系・文系の2コースそれぞれ8回、主にクラーク会館を会場にして、対面で開講しました。

歴史的な視点からみれば、大学とは、世代を超えて学ぶ意欲のある人が集まり、知識を学び、その内容をさらに発展させていく場でした。「北大道新アカデミー」は、本学が提供する、社会人の学び直しを意味するリカレント教育プログラムの一つに位置づけられています。

文系コースは公共政策大学院の研究者が担当しました。テーマは「現代日本の中央・地方が直面する政策課題」です。中央省庁や政府機関などの第一線で活躍している実務家教員が講義を行う点に特色があります。

理系コースは工学研究院の研究者が担当しました。テーマは「北大工学研究の最前線～あなたの身近にある工学～」です。最先端の研究成果と社会課題の解決に貢献する工学の魅力を紹介しました。

前期の北大道新アカデミーは、文系コース、理系コース共に約40名が講座を受講しました。受講後のアンケートでは「北大の講師の方々と、その研究分野を知る機会となりました。産学官の連携をとりつつ、大学として地域に結びついた研究内容がよかったです」「北海道大学のキャンパスで、年齢を問わず学べる機会をいただき、とても有意義なアカデミーでした」との感想がありました。また、本学進学を考えている高校生の受講者からは「アカデミーの参加によって、より一層北大への興味が湧きました。さらに化学や物理学への興味も深まり、今後の研究内容や大学での専攻内容への参考にしたいなと思いました」との回答がありました。

（大学院教育推進機構）

2023年度北大道新アカデミー前期　講義タイトル・講師

日　程	講義タイトル・講師	
	文系	理系
【第1回】5月13日（土）	「公共政策を考える視点」 武藤俊雄　准教授	「多雪寒冷地の都市デザイン」 瀬戸口剛　教授
【第2回】5月20日（土）	「国・地方の行政を見る視座」 山本直樹　教授	「人類の発展を“影”で支える鉱山学とその未来」 川村洋平　教授
【第3回】5月27日（土）	「国・地方の公務員を取り巻く課題」 山本直樹　教授	「陽子線治療のしくみと活用」 松浦妙子　准教授
【第4回】6月10日（土）	「日本における境界（ボーダー）：移民とジェンダーの視点から」 池　炫周　直美　准教授	「金属材料の顔を覗く」 米田鈴枝　助教
【第5回】6月17日（土）	「介護保険制度の意義」 田中謙一　教授	「北海道の公共事業について」 内田賢悦　教授
【第6回】6月24日（土）	「『地域包括ケアシステム』とは」 田中謙一　教授	「下水疫学による新型コロナの流行把握」 北島正章　准教授
【第7回】7月1日（土）	「国立公園への旅―その成り立ちと魅力、支える人々」 中尾文子　教授	「共創による地域社会課題解決への挑戦」 佐藤功紀　特任教授
【第8回】7月8日（土）	「野生生物について考える」 中尾文子　教授	「科学技術に立脚した現代版『竹取物語』」 佐藤太裕　教授

※会場：第1回～第6回　クラーク会館、第7回～第8回　文系共同講義棟

大学院生向けキャリア支援セミナー 「日本と世界で働くためのLinkedIn入門」を英語・日本語で開催

大学院教育推進機構先端人材育成センターI-HoPは、7月14日（金）に大学院生を対象とした英語によるキャリア支援セミナー「Connecting to opportunities through LinkedIn」を開催しました。また、同日に、同センターと教養深化プログラム共催の日本語版のセミナー「日本と世界で働くためのLinkedIn入門」も実施しました。日本のみならず世界で働くことを目指す学生にとって、自分の専門性や志望にあった海外のポストの効果的な探し方や、世界で活躍するロールモデルを知り、ネットワークを広げることが重要となります。LinkedInは世界200か国以上、約9億人が利用しているビジネスSNSのグローバルプラットフォームであり、海外では転職経路の約4割近くがLinkedInと言われるほど多くの人に利用されています。

当日は、LinkedInジャパンからレイヤン氏と辻　和馬氏を講師に迎え、世界で活躍している北大OBOGの見つけ方から、LinkedInの効果的な使い方、企業やアカデミックポジションを見つけるためのヒントなどをお話しいただきました。セミナーの中では活発な質疑応答が行われ、参加者それぞれが関心のあるキャリアのロールモデルの効果的な探し方等を、実際にツールを使いながらご紹介いただきました。

このセミナーには、英語版と日本語版併せて22名が参加し、終了後のアンケートでは、「就職に繋がったユースケースを紹介してもらえて参考になった」、「自分の知見やコミュニティの広げ方が分かった」等の感想が寄せられました。

北海道大学は第4期中期目標・中期計画に基づく大学院改革のうち、キャリア支援に関して、「学部から博士までの一貫したキャリア教育の強化」を掲げており、I-HoPはそのうちの大学院生向け英語によるキャリア支援プログラムを担当しています。また、教養深化プログラムは全ての分野の大学院生に向けて社会で活躍できる実践力向上のためのプログラムを提供しています。今後も、多様なキャリアパスを広げるためのスキルアップや情報収集に役立つ機会を提供していきます。

（大学院教育推進機構先端人材育成センター）

英語セッションの様子

日本語セッションの様子

大学院生向け英語プレゼンテーションセミナー Improving Your Oral Presentation Skillsを英語で開催

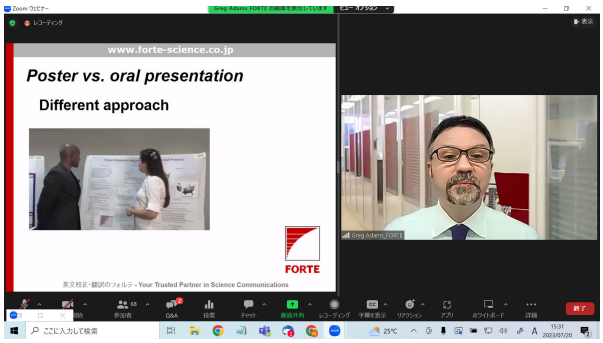
大学院教育推進機構先端人材育成センターI-HoPは、7月20日（木）に大学院生を対象とした英語による英語プレゼンテーションセミナー「Improving Your Oral Presentation Skills」を開催しました。英語でのプレゼンテーションスキルは、世界での活躍を志す研究者にとって必須のスキルである一方、日本人学生、留学生ともに非英語圏出身の学生にとっては苦手意識が強い場合が多く、学習やトレーニングの機会が求められています。

当日は、科学技術論文の英文校正や翻訳等の研究支援を展開する株式会社フォルテからグレッグアダムス氏を講師に迎え、プレゼンテーションの構成や効果的な英語の練習方法、質疑応答への対応方法等の説明が行われました。

博士人材育成コンソーシアムの連携大学を含む全国5大学（北海道大学、東北大学、筑波大学、お茶の水女子大学、沖縄科学技術大学院大学）から計69名の大学院生が参加し、終了後のアンケートでは「英語のプレゼンのポイントが分かりやすかった。このセミナーを聴けて良かったです。特に印象に残っているのは、プレゼンテーションの重要なポイントはコミュニケーションであり、完璧なスピーチではないということです」「2ヵ月後に国際会議で初めての口頭発表をするので、とても参考になった」等のコメントが寄せられました。

I-HoPでは、従来留学生向けに開発されたスキルアッププログラムを日本人学生にも展開することで、多様なキャリアパスを広げるためのスキルアップの機会を提供しています。

（大学院教育推進機構先端人材育成センター）



グレッグ氏による講演

文学研究院FD「デスクネッツネオ（desknet's NEO）の活用について」を開催

文学研究院では、7月14日（金）、本学のグループウェアであるデスクネッツネオの各機能の利活用方法を解説するFD研修をZoomによるオンライン形式で開催しました。文学研究院では、今年度から教授会資料掲載や会議室予約状況確認にデスクネッツネオを利用しており、教職員の利用促進を図る必要があることから本FDを企画しました。

講師は、デスクネッツネオに係る業務を総括されている、総務企画部総務課企画担当の北野誉直係長にお願いしました。

はじめに北大が目指すDX、デスクネッツネオの概要について説明があり、次いでデスクネッツネオの各機能について、実際のデスクネッツネオの画面も表示しながら解説いただきました。アンケート機能の説明では、参加者が実際にデスクネッツネオを操作して教授会での電子投票を想定した模擬投票を体験しました。質疑応答では、参加者からアンケート機能の設定に係る具体的な質問が出たほか、本学のDXに係る意見交換も行われるなど、実践的で充実した内容となりました。

今回のFDは、文学研究院だけでなく、アイヌ・先住民研究センター、社会科学実験研究センター、人間知・脳・AI研究教育センターの教職員からも参加があったほか、講師を務めた北野係長が在籍するDX業務推進室の職員にも陪席をいただき、総勢108名の教職員が参加した大変有意義なFDとなりました。

（文学研究院）

研修は実際にデスクネッツネオを操作しながら行われた

講師を務めた総務企画部総務課企画担当の北野係長

進行役を務めた文学研究院の竹澤教授

会計専門職大学院が公認会計士制度説明会を開催

7月12日（水）に、会計専門職大学院と日本公認会計士協会北海道会との共催により、「公認会計士制度説明会」を人文・社会科学総合教育研究棟にて実施しました。この説明会は、学部・学院を問わず広く本学の学生へ公認会計士についての理解を深めてもらうことを主たる目的としています。

4年ぶりに対面で開催した今回は、会計専門職大学院の久保淳司院長の挨拶にはじまり、日本公認会計士協会北海道会の新木　亘広報委員長の司会のもと、同会の富樫正浩会長による趣旨説明の後、日常的な監査業務についての再現DVDを視聴しました。

続いて、同会準会員の山本悠雅氏より受験勉強の心構えや学生時代の過ごし方から監査業務での体験談まで、同会会員の澤田真輝氏から公認会計士試験の合格状況やその後のキャリア形成についての講話をいただきました。終了後には、学生からの質問にも富樫氏が分かりやすく回答してくださり、盛会のうちに終了しました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）

説明会の様子

次世代生命科学共同研究プロジェクト報告会を開催

先端生命科学研究院では、令和4年度に部局内ファンドを創設し、「次世代生命科学共同研究プロジェクト」実施支援を行いました。6月22日（木）、学術交流会館にて、採択された6つのプロジェクトの報告会を開催しました。

このプロジェクトは、新しい研究分野・異分野の開拓にチャレンジする共同研究チームの形成を支援し、次世代の生命科学・ソフトマター科学分野の研究シーズを育成することを目的としています。国際共同研究と異分野融合共同研究のプロジェクトを募集し、FS（フィージビリティ・スタディ）採択3件を含む、計6件が採択されました。

報告会では、プロジェクト代表者による6件の成果発表が行われました。出席者からは、専門的な質問・コメントに加えて、国際化あるいは異分野融合の発展に向けたアドバイスなどが示されました。若手・中堅教員にとって、刺激的かつ有意義な報告会となりました。

報告会終了後には、「先端生命　初夏の交流会」を開催。研究院に関係する教職員が一堂に会し、交流を深める良い機会となりました。

（先端生命科学研究院）

プロジェクト代表者からの報告

質疑応答

初夏の交流会での集合写真

令和5年度理学院優秀研究奨励賞授賞式を挙行

理学院では、7月11日（火）に理学部大会議室において、令和5年度理学院優秀研究奨励賞授賞式を挙行しました。

この賞は、理学に関する優れた研究を推進する学生を表彰し、研究の更なるステージアップを支援することを目的に、博士後期課程学生1年生及び2年生を対象として平成30年4月に設けられました。

今年度は、創造性に富む卓越した研究計画を立案し、これに取り組んでいる12名が受賞者に選ばれました。

授賞式では、永井隆哉理学院長から、この賞の趣旨説明とお祝いの言葉が述べられた後、表彰状と記念品が一人ひとりに手渡されました。今後も、この賞が本学院学生の基礎科学に関する深い洞察力と創造性、研究立案・推進能力の向上を一層喚起するものとなることを期待しています。

（理学院）

永井理学院長からの祝辞

授賞式での記念撮影

歯学部で台北医学大学歯学部生との交換留学を実施

歯学部において、7月10日（月）から14日（金）まで、台湾の台北医学大学4年生が5名来学し、歯学部と北海道大学病院歯科を見学しました。この事業は、2018年の部局間提携に基づく学生交流の一環として実施されました。

初日には、網塚憲生歯学部長と、先方のHsin-Chung Cheng学部長、Li-Sheng Chen副学部長、Chih-Yuan Fang口腔外科准教授らが、今後の共同研究の進め方について討論しました。

受け入れプログラムは口腔顎顔面外科学教室が主体となって対応し、学生は北海道大学病院歯科で外来8診療科の診察や中央手術室を見学し、両国の疾患や治療の相違などについて学ぶ機会を得ました。7月13日（木）には歯学部生が主体となって交流会を企画し、双方の学生生活について発表の後、情報交換することで相互に理解を深めることができました。

10月には本学学部生が台北医学大学を訪問する予定があるなど、今後もさらに交流を深め、継続して両校の学術及び学生交流を推進していきます。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）

台北医学大学一行との記念撮影

水産科学研究院・サステイナビリティ推進機構が「HBC赤レンガプレミアムフェスト」に参加

7月14日（金）から17日（月・祝）に札幌市北3条広場（アカプラ）で行われた「HBC赤レンガプレミアムフェスト」（主催：北海道放送株式会社（以下、HBC））に、水産科学研究院とサステイナビリティ推進機構がブース出展及びステージプログラムに出演しました。

ブースでは、サステイナビリティ推進機構によるパネル展示や、北大ブランド商品である北大短角牛や新商品の「北大トラウト」を販売したほか、水産科学研究院バランスドオーシャン運用部が「LASBOSカードdeガラポン抽選会」を行いました。ガラポン抽選会の景品には、水産学部附属練習船おしょろ丸が採水した海洋深層水を用いた「おしょろ丸カレー」と「北大おかき」やLASBOSクリアファイル等があり、多くの方にご参加いただきました。

また、7月15日（土）には、同広場に設置されたステージで、「海はもう一つの森～ブルーカーボンって何？～」と題し、水産科学研究院の芳村　毅准教授と水産学部卒業生であるHBCアナウンサーの佐藤　彩氏がトークセッションを行いました。ブルーカーボンはコンブのように海に生息する植物が吸収してくれる二酸化炭素のことで、世界から注目が集まっています。芳村准教授からは「森林と違って、海の中はなかなか見ることができないが、水面下にも植物が存在していて、CO_2削減のために活躍をしてくれている。ぜひ海の中を覗いてみてほしい」という言葉でトークセッションが締められました。

＊LASBOS（ラスボス）とは、Learning and Study by Balance de Ocean Systemの頭文字で、海と生き物のオンライン教材群です。LASBOSカードは、海と生き物を学ぶことができるコレクションカードで、表面の写真、裏面にある解説とQRコードから閲覧できる動画から多面的に学ぶことが可能です。

（水産科学研究院・
サステイナビリティ推進機構）

トークセッションを行ったHBCアナウンサーの佐藤氏（左）と芳村准教授（右）

LASBOSカードラリー deガラポン抽選会の参加者

ガラポン抽選の様子

スタッフとHBCマスコットキャラクターのもんすけとの集合写真

東アジアメディア研究センターで『ミャンマーの民主化を求めて』出版記念トークショーを実施

メディア・コミュニケーション研究院の東アジアメディア研究センターは、6月25日（日）に紀伊國屋書店札幌本店で、東アジアメディア研究センターのセンター長である玄　武岩教授及び下郷沙季学術研究員、メディア・コミュニケーション研究院の藤野陽平准教授が編集した『ミャンマーの民主化を求めて　立ち上がる在日ミャンマー人と日本の市民社会』の出版記念トークショー「ミャンマー支援　札幌の私たちにできること」を出版社の有限会社 寿郎社との共催で行いました。

本書は令和2年2月1日（土）に起きたクーデターを受けて同3年8月から12月に当センターが主催した「ミャンマーを知る市民講座　民主主義のための連帯」（全5回）の内容をまとめ、今年3月に刊行したものです。

本トークショーは、札幌市で活動しているミャンマー人のトゥン氏と下郷学術研究員が登壇し、玄教授が司会を務めました。前半は下郷学術研究員が本書の内容の中から、街頭での募金やSNSでの発信、デモ行進など、比較的容易に取り組むことのできる支援方法を抜粋して紹介しました。また、歴史的にみると、もともとミャンマー軍は日本軍の支援を受けて作られたものであり、現在に至るまで変遷があったとはいえ、日本は今回のミャンマー軍によるクーデターと無関係のように振る舞うことはできないはずだと主張しました。

後半はトゥン氏が札幌市での活動状況やミャンマーの人々への思い、日本の人々にお願いしたいことについて話しました。「親日」と言われることの多いミャンマーですが、軍の資金源となっているODA（政府開発援助）の取り止めが決まらなかったり、軍事政権に対抗するNUG（ミャンマー国民統一政府）と公式での面会を行わなかったりするなど、その消極的な姿勢により日本政府への期待感は薄れているとも語りました。

一方、ミャンマー民主化のための市民運動は、日本は他の国と比べても非常に活発で、支援団体の数も多いと言われています。トークショー終盤では、そうした草の根的な活動の必要性が強調され、今後もミャンマーの動きに注目するよう呼びかけました。

本トークショーの参加者は約20名で、その中には昨年当センターが主催した市民講座を、親がオンラインで受講し、それを隣で聞いたことでミャンマーに関心を持った中学3年生もいました。その参加者は、自分が通う中学校で、生徒らに向けてミャンマーに関する講演会を開催するため、自ら学校側と交渉し、実現にまで漕ぎ着けたそうです。昨年の市民講座をきっかけに「知ること」と「動くこと」が鮮やかに繋がり、その意義を改めて感じられる場ともなりました。

（メディア・コミュニケーション研究院）

『ミャンマーの民主化を求めて』
出版記念トークショーの登壇者ら

低温科学研究所が中谷宇吉郎雪の科学館との連携協定に基づき出前授業及び講演会を実施

低温科学研究所では、石川県加賀市の中谷宇吉郎雪の科学館との連携協定に基づき、7月21日（金）に石川県立大聖寺高等学校にて出前授業を、7月22日（土）に中谷宇吉郎雪の科学館（及びオンラインのライブ配信）にて講演会を実施しました。

大聖寺高等学校での出前授業では、理系志望の高校2年生約60名に対し、本研究所の渡部直樹教授が、宇宙における分子の進化と氷微粒子の役割について授業を行いました。その後、中谷宇吉郎雪の科学館の古川義純館長から「低温研と科学館との連携協定を通して、これからも高校生たちに科学の最前線を紹介していきたい。出前授業が学術の世界と学校とを結びつける一つの窓口になれれば」と授業の狙いを述べられました。

また、雪の科学館での講演会では、「地球の水と生命の起源を探る―宇宙からのメッセージ―」と題して、渡部教授が「宇宙の氷」を、大場康弘准教授が「地球生命の起源」をテーマとした講演を行いました。各講演では、地球に存在する水や有機物の誕生の地である宇宙の極低温領域で形成する氷微粒子や、小惑星探査機「はやぶさ2」が地球に送り届けたサンプルの分析から、地球外物質に含まれている有機物と生命の誕生について紹介、解説が行われました。

本講演会は、会場参加と、オンライン参加を合わせて約70名に聴講いただきました。

講演会の最後に設けた質問コーナーでは、参加者から熱心な質問や意見が寄せられた他、多くの好意的な声をいただくなど盛況のうちに終了しました。

（低温科学研究所）

渡部教授による出前授業の様子

大場准教授による講演

駐日欧州連合代表部代表・特命全権大使が附属図書館を来訪

附属図書館では6月29日（木）にジャン＝エリック・パケ駐日欧州連合代表部代表・特命全権大使（以下、パケ大使）の訪問を受けました。これは附属図書館が昭和57年にEC資料センター（平成18年にEU情報センターに改称して現在に至る）の指定を受けたことから、今回のパケ大使の本学訪問を機にEU情報センターとしての附属図書館来訪が実現したものです。

当日は、山本文彦附属図書館長の出迎えのもと、EU情報センターの資料管理を担当する図書館職員が館内を案内しました。最初にエントランスのEU常設展示について説明し、次に4階の国際資料のエリアにて、EUが発行する公式資料の書架とEU資料専用のパンフレット棚を案内し、国内でも例の少ないEU情報の調べ方講習会の独自開催や、学内外の利用者が自由に手に取ることが出来る「アカデミックスキルガイド」のEU資料編の提供など、附属図書館のEU情報センターとしての取り組みを紹介しました。

パケ大使は書架からご自身で資料を手に取ってご覧になりながら熱心に質問され、最後に図書館スタッフと固い握手を交わして図書館を後にしました。

（附属図書館）

EU資料をご覧になるパケ大使

館内を案内する様子

メルボルン大学の家畜生産生理研究者一行が来訪

7月17日（月・祝）～22日（土）の間、メルボルン大学理学研究院からロビン・ワーナー教授、クリスティ・ディジアコモ上級講師、スリンダー・チャウハン上級講師・農学系国際担当教員の3名が北海道大学を訪問しました。両大学は、長年にわたる感染症及びナノ材料研究連携をもとに、2021年末から全学的な連携強化を図っており、昨年立ち上げたマッチングファンドの採択案件の一つとして「北大・メルボルン大合同ワークショップ：健やかな惑星のための高品質食料生産に繋がる持続可能な家畜生産」が開催されました。ワークショップに合わせ、当初渡日予定であったディスティングイッシュト・プロフェッサーのフランク・ダンシア教授が、米国動物学会連合（FASS）から本年の「家畜栄養に係る新境地開拓賞」を受賞するという嬉しいニュースもありました。

野口　伸農学研究院長の挨拶で始まったワークショップにおいては、ダンシア教授から「抗酸化物質と植物由来ポリフェノールによる家畜の健康と生産性向上の可能性」が、授与式に同行するジェレミー・コットレル上級講師から「熱性ストレスの生物学と栄養改善戦略」、ワーナー教授から「生産肉の品質を決定づける野火、筋肉構造、繊維質」、ディジアコモ上級講師から「持続可能な食料生産における小型反芻動物の役割」、チャウハン上級講師・農学系国際担当教員から「動物生産の持続可能性における遺伝育種学の役割」が紹介されました。北海道大学からは、北方生物圏フィールド科学センターの後藤貴文教授から「牧草で育てる和牛の可能性と牛肉生産におけるエピジェネティクスの応用」、農学研究院の高橋昌志教授から「牛の妊娠早期発見のための新たなアプローチ」、若松純一准教授から「行動的温熱感覚文責を活用した、マウスの食後の温熱感覚に対する異なる肉種とその割合における影響」、内田義崇准教授から「北海道の酪農システムとその栄養管理戦略」、小池　聡教授から「反芻動物の生産改善のためのルーメン微生物叢の探索」が説明されました。日本の防疫規制に伴い滞在中の牧場入場は適わないものの、十勝清水のコスモスファーム、白老の敷島ファームからの和牛生産者がワークショップに参加し、それぞれの牧場の様子を語りました。

研究者たちは、北海道大学のスマート農業教育研究センター、モデルバーン等関連施設を見学し、また、雪印メグミルク株式会社やサツラク農業協同組合の工場見学に繰り出しました。今後も研究者同士の連携を強固なものとし、大学院生の双方向研究インターンシップに繋げられないかと話が弾みました。地球温暖化に伴い、家畜生産は世界的に新たなステージに入っており、両学の連携が期待されます。

（北方生物圏フィールド科学センター、
農学研究院、国際連携機構）

ワークショップでの集合写真

ワークショップの様子

国際食資源学院長との面会

スマート農業教育研究センター見学の様子

新ブランド「北大トラウト」が完成

北方生物圏フィールド科学センター七飯淡水実験所で飼育されているサケマス類から、新たに「北大トラウト」として、燻製サクラマスとヤマメそしてイトウのオイルコンフィが発売されました。

これは研究や教育で利用される12種18系統のサケマス類を飼育する中で、産卵を終えた経産魚や研究教育で成果を上げた成果魚など、役目の終わった魚を廃棄することなく活用することを模索する中で、地元企業との連携によって生まれたものです。特に燻製は札幌キャンパスで剪定されたハルニレ材を使うなど、廃棄物の有効利用にも貢献しています。

商品は7月にHBC北海道放送主催で行われたHBC赤れんがプレミアムフェストで本格的なお披露目となりましたが、あくまでも研究や教育での利用後に原料として提供されるため、不定期かつ少量生産となっています。もしどこかでお手にする機会がありましたら是非一度ご賞味いただき、本学の研究教育成果に思いを馳せてみてください。

今後も北方生物圏フィールド科学センターでは、フィールドで産出される資源を高付加価値で有効活用に取り組んでいきます。

関連記事
産地直送　北大ブランド通信 vol.21
～ 新たな認定商品　北大トラウト ～
https://www.mcip.hokudai.ac.jp/topics/details---id-272.html

（北方生物圏フィールド科学センター）

燻製サクラマス

燻製ヤマメ

イトウのオイルコンフィ

保健センターで第9回健康キャンパス北大「正しく知ろうHPVワクチン 専門家が伝える子宮頸がん予防」に関する講演会を開催

保健センターでは、6月29日（木）に医学部百年記念館において、第9回健康キャンパス北大「正しく知ろうHPVワクチン　専門家が伝える子宮頸がん予防～もう始まっているよ。HPVワクチンキャッチアップ接種のチャンス！～」を開催しました。今回の講演会は、昨年から公費で行われているHPVワクチンのキャッチアップ接種制度に関して、学内の学生・教職員への情報提供を目的としたものです。

当日はあいにくの大雨でしたが、学生・教職員合わせて22名の参加がありました。

第1部では、医学研究院　産婦人科学教室の山崎博之特任助教から「予防できるがん～子宮頸がんとは～」についての講話、北海道大学病院　医療支援課地域医療連携係の苅谷美奈子氏から「HPVワクチン相談支援等事業」についての紹介がありました。講師の方々の分かりやすい説明を、参加者は非常に熱心に聞き入っていました。

第2部では、講演会全体を通してのディスカッションが行われ、会場からは積極的な質疑があり、講師の方々が質疑に対し一つ一つ丁寧に対応していました。このディスカッションは終了時間ぎりぎりまで行われ、非常に盛り上がりました。参加された皆様においては、今回の内容についてさらに、知識・興味を深められたことと思います。

子宮頸がん予防に関する講演会の続編である第2弾は、Zoomによるライブ配信型講演会を9月25日（月）に開催予定です。

（保健センター）

第1部講演会の様子

第2部ディスカッションの様子

会場で配布したパンフレット等

スラブ・ユーラシア研究センター夏期国際シンポジウム「崩壊の局面：アフロ・ユーラシアから『14世紀の危機』を思考する」開催

スラブ・ユーラシア研究センター2023年度夏期国際シンポジウムが、“The Phase of Catastrophe: The Crisis of the 14th Century in Afro-Eurasian Context”のタイトルの下、7月13日（木）及び14日（金）の2日間、スラブ・ユーラシア研究センター内にて開催されました（一部オンライン）。シンポジウムの主題である「14世紀の危機」は、「中世温暖期」から「小氷期」への移行期にあたる14世紀に起きたユーラシア規模での、1）気候変動、2）社会動乱、3）疫病流行の3つの複合要素から成り、ユーラシア史を不可逆的に転換させた「危機」を意味します。従来はヨーロッパ史の枠内で考えられてきたこの世界史の一大転換期を、広くアフロ・ユーラシア規模で思考することが本シンポジウムの目的でした。

本シンポジウムでは、5セッションに3本ずつ、合計15本の報告とそれぞれのセッションのディスカッサントによるコメントに続いて、セッションごとに議論がなされました。対面参加に限定しても、ドイツ・韓国・中国・フランス・ブルガリアといった多様な地域から登壇者を得ることができました。前近代史という、当センターの国際シンポジウムとしては過去に例のないテーマでの開催となりましたが、2日間で66名（オンライン参加9名）もの方々の参加を集めることができ、環境史をはじめとする文理協働研究への関心の高さを窺わせる結果となりました。

2日間にわたる議論を通じて、この「14世紀の危機」に関して様々な論点が出るところとなりました。それは大枠において以下の5点にまとめられます。1）地域的な多様性、2）時間的な多様性、3）史料の語り方、4）サイクルへの注視、5）新たな時代・勢力の胎動。ユーラシア規模での思考と、文理協働研究の推進、スラブ・ユーラシア研究センターが目指す方向性に合致した「14世紀の危機」研究の可能性が、大いに膨らんだシンポジウムとなりました。

（スラブ・ユーラシア研究センター）

シンポジウム・ポスター

シンポジウム終了後の集合写真

▌お知らせ

組合員証等の検認

「組合員証等の検認」を本年9月に行います。

（例年実施しております被扶養者の要件の確認に加え、5年ごとに実施しております組合員証等の現物確認を合わせて行うものです。）

組合員証等の検認は、組合員証・組合員被扶養者証・船員組合員証・船員組合員被扶養者証・高齢受給者証・特定疾病療養受領証・限度額適用認定証の交付を行った全組合員を対象に行います。（国家公務員共済組合員法施行規則第92条により実施）

ついては、カードで発行されている組合員証及び組合員被扶養者証等について両面のコピーを提出していただき、破損の有無や住所の確認をしますので被扶養者申告書と被扶養者の認定条件に必要な添付書類も合わせてご準備ください。

また、紙で発行された特定疾病療養受領証については、今回の更新にあたり医師の証明を不要といたします。同様に紙で発行された限度額適用認定証については、検認印を押印しますので現在ご使用の証の提出をご準備ください。

なお、組合員証を届け出た際の住所と現住所に変更がある場合は、速やかに届け出してください。住所の変更手続きがされていない場合、国家公務員共済組合連合会より送付される「ねんきん定期便」など重要なお知らせが届かない場合がございますのでご注意ください。

現在使用している各組合員証等は、検認を受けなければ以後のご使用に支障が生じますので、速やかな検認にご協力をお願いいたします。

組合員証等の検認の詳細は、後日各部局等の共済事務担当係よりお知らせいたします。

（文部科学省共済組合北海道大学支部）

令和4年度北海道大学外国人留学生後援会の決算

「北海道大学外国人留学生後援会」は平成15年4月に発足し、20年が経過しました。

この間、多くの方々に本後援会にご加入いただき、ご協力、ご支援をいただきましたこと、本誌面をお借りしてお礼申し上げますとともに、令和4年度決算を報告します。

本後援会は、会員の皆様からの拠出金をもとに、留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援、留学生の入院に伴う連帯保証に係る支援、留学生の疾病等に対する経済的支援、留学生の不測の事故等に対する経済的支援、留学生を支援する団体に対する経済的支援を主な事業として活動しています。

今後とも、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

（学務部学生支援課）

令和4年度北海道大学外国人留学生後援会　決算報告書

自）令和4年4月1日
至）令和5年3月31日

1. 収入の部　（単位　円）

事　　項	予 算 額	決 算 額	備　　考
前年度からの繰越	52,560,115	52,560,115	
会費	1,803,600	1,593,600	6月期徴収額 795,000 12月期徴収額 798,600
立替払返戻金	0	0	
一時金貸付金返戻金	0	0	
収　入　合　計	54,363,715	54,153,715	

2. 支出の部　（単位　円）

事　　項	予 算 額	決 算 額	備　　考
留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援	1,000,000	0	弁護士相談　0 退去時精算　0
留学生の入院に伴う連帯保証に係る支援	500,000	0	
留学生の疾病等に対する経済的支援	500,000	0	
留学生の不測の事故等に対する経済的支援	7,000,000	0	一時貸付金　0
留学生を支援する団体に対する経済的支援	1,000,000	75,600	特定非営利活動法人SEMIさっぽろ
その他	0	0	
予備費	44,363,715	0	
支　出　合　計	54,363,715	75,600	

3. 差引額　（単位　円）

翌年度に繰越	−	54,078,115	

▌表敬訪問

海外

年月日	来　訪　者	来 訪 目 的
5.7.4	駐日フィジー共和国大使館　Filimone Waqabaca 特命全権大使	今後の交流に関する懇談
5.7.7	台北医学大学（台湾）　Chieh-Hsi Wu 副学長	今後の交流に関する懇談
5.7.21	マイソール大学（インド共和国）　K.S. Rangappa 元学長	今後の交流に関する懇談

Filimone Waqabaca 駐日フィジー共和国大使（右から4人目）

Chieh-Hsi Wu 台北医学大学副学長（左から６人目）

K.S. Rangappa マイソール大学元学長（左から3人目）

（国際部国際連携課）

人事

令和5年8月1日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【経営協議会委員】 （期間：令和7年7月31日まで）	渡　辺　美代子	日本大学常務理事
【教授】 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院保健科学研究院教授 大学院経済学研究院教授	 COOK EMMA ELIZABETH KLIEN SUSANNE 澤　村　大　輔 亀　岡　典　之	 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授 大学院保健科学研究院講師 金融庁証券取引等監視委員会事務局主任証券調査官 （併）証券取引等監視委員会事務局開示検査課課長補佐

新任教授紹介

令和5年8月1日付

メディア・コミュニケーション研究院教授に

COOK EMMA ELIZABETH（クック　エマ　エリザベス）氏

現代日本学部門現代日本学分野

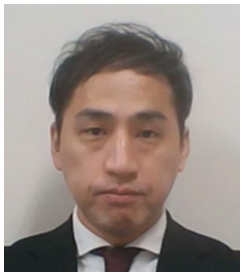
最終学歴
SOASロンドン大学大学院人類学研究科文化人類学専攻　修了（平成22年6月）
Ph.D.（社会文化人類学）（SOASロンドン大学）
専門分野
社会人類学と食文化

メディア・コミュニケーション研究院教授に

KLIEN SUSANNE（クリーン　スザンネ）氏

現代日本学部門現代日本学分野

最終学歴
ウィーン大学大学院人間科学・社会科学学部博士課程　修了（平成13年6月）
博士（哲学）（ウィーン大学）
専門分野
文化人類学



保健科学研究院教授に

澤村（さわむら）　大輔（だいすけ）　氏

保健科学部門
リハビリテーション科学分野

生年月日
昭和54年4月10日
最終学歴
北海道大学大学院保健科学院博士後期課程修了（平成26年3月）
博士（保健科学）（北海道大学）
専門分野
作業療法学

経済学研究院教授に

亀岡（かめおか）　典之（のりゆき）　氏

会計情報部門会計情報分野

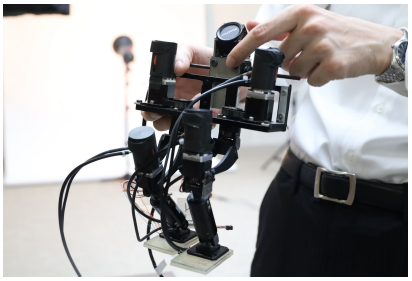
生年月日
昭和47年6月20日
最終学歴
東北学院大学大学院経済学研究科修了（平成9年3月）
専門分野
企業法

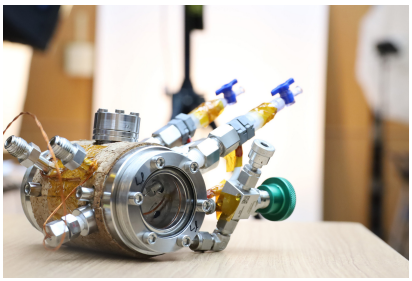
編集メモ

●9月30日（土）にホームカミングデーが開催されます。ライブ配信のほか、有観客で行われるイベントもあります。詳細は下記ホームページよりご確認いただけます。
https://www.hokudai.ac.jp/home2023/

●今年度もAcademic Fantasista 2023がはじまります。本学の第一線の研究者が、出張講義等を通じて高校生に知の最前線を伝える事業「Academic Fantasista（アカデミックファンタジスタ）」。2012年度より北海道新聞社と連携し、本学の「国民との科学・技術対話」支援の一環として実施しています。2023年度も8月から順次講義を開催予定です。7月某日、事業を紹介する新聞広告用の写真撮影が行われましたので、その様子をお届けします。広告の完成版は9月号に掲載予定です。お楽しみに。

撮影風景


研究に関連する小物を持って撮影


無重力で使用する実験装置

撮影した画像はモニターで確認

裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は、インフォメーションセンター「エルムの森」です。学生や教職員はもちろん、観光客や市民にとっても憩いの場となっております。7月14日（金）～9月2日（土）までは「緑のビアテラス」が開催され、交流の場としても一層賑わいを見せています。

キャンパス風景 41　インフォメーションセンター「エルムの森」（北8条西5丁目）

北大時報 ⑧　No.833　　令和5年8月発行

北海道大学社会共創部広報課　〒060－0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL：（011）706－2610 ／ FAX：（011）706－2092 ／ E-mail：kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html